



病院と在宅医 との関わり

昨今では科学技術の進歩に伴い、自宅でできる

医療検査、行為は増えま

す。代表的な疾患でい

ば骨折です。

先日、玄関に向かう最

中に転倒し、丸一日玄関

で定まっていた。声を

かけたところ、彼は「入院

の超音波検査などの検査、

けました。診察をしたと

ての自宅療養には不安が

あつたんだよ」と安堵感

を浮かべていました。

もちろん、病院は処置

治療をするところであり、

決して生活の場を提供す

るところではありません

しかし、病態解明やその



松原 清二 医師
在宅療養支援診療所「まつばら
ホームクリニック」院長
総合内科専門医・循環器内科医
・日本循環器学会専門医
・日本内科学会認定医
・認知症サポート医

【まつばらホームクリニック】
 ☎ 042-439-1250
 西東京市東町 4-14-18-2F
 (訪問中のため不在が多い)
 ■電話対応 : 午前 9:00 ~ 午後 6:00
 ■定休日 : 土日 (祝日は診療)
 ■訪問地域 : 西東京市全域、東久留米・
 新座・練馬の一部

まつばらホームクリニック

肺炎などには抗生剤の点滴治療、息が苦しい方には在宅酸素、胃薬(ろっ)や尿道バルーンカテーテル管理などが挙げられます。生活自体が困難になると判断し、すぐに病院に搬送しました。

翌日、私が入院先の病院を訪れたところ、患者さんは骨折のため足を固定されていました。声をかけたところ、彼は「入院は、とても大切なことな

り。病院と訪問診療所は互いに行き来できることではないことを明確化し、補いあつていくことが肝

要です。両者の病診連携は、とても大切なことな

り。病院と訪問診療所は互いに行き来できることではないことを明確化し、補いあつていくことが肝

要です。両者の病診連携は、とても大切なことな

り。病院と訪問診療所は互いに行き来できることではないことを明確化し、補いあつていくことが肝

要です。両者の病診連携は、とても大切なことな

り。病院と訪問診療所は互いに行き来できることではないことを明確化し、補いあつていくことが肝

要です。両者の病診連携は、とても大切なことな

り。病院と訪問診療所は互いに行き来できることではないことを明確化し、補いあつていくことが肝

要です。両者の病診連携は、とても大切なことな

り。病院と訪問診療所は互いに行き来できることではないことを明確化し、補いあつていくことが肝